



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

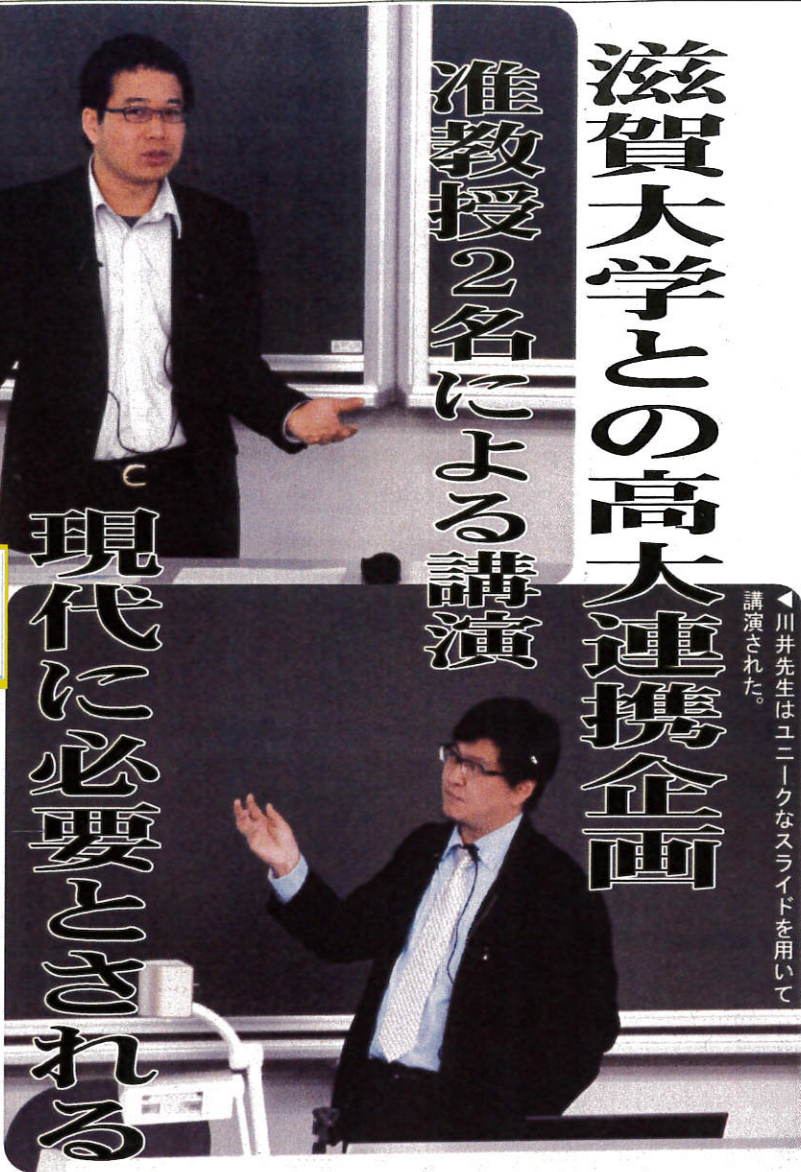
# 滋賀大学との高大連携企画

## 准教授2名による講演

### 現代に必要なとされる

### 考え方を学ぶ

川井先生はユニークなスライドを用いて講演された。



データサイエンスの重要性を説明される姫野先生



## 滋賀大学 データサイエンス学部新設

データサイエンスはデータから新たな価値を創造することを目指す学部として、今年4月に新設される。滋賀大学は平成28年12月に「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点大学に文部科学省から選定されており、この学部が国内初のデータサイエンス学部となる。データサイエンス学部には、必要とされる高度な学問的素養を身に付け、社会で活躍できる人材を育てることを目指している。情報・統計・機械学習などの多岐にわたる分野で、最先端の教育を受ける。

川井明先生は自身が研究されているビットコインについての講演をされた。ビットコインは実体としては存在しない仮想通貨の一つであり、2014年に取り扱っていた会社が倒産したことで話題になった。根本の発想は通貨の金とほぼ同じで、総量に制限をかけ流通の枚数にも上限を設けている。川井先生は「デジタルマネーを本物と信じているのかや国あつてのお金なので国がつぶれたらどうなる

3月22日に滋賀大学彦根キャンパス大合併講義室にてリーダーシッププロジェクト講演会が開かれ、滋賀大学データサイエンス教育研究センター准教授の川井明先生が「仮想通貨『ビットコイン』とは何か?」と、同准教授の姫野哲人先生が「データサイエンスの事例及びデータの可視化の重要性」とそれぞれ題して講演された。

かを考えてみてほしい」と生徒に呼びかけられた。姫野先生はデータサイエンスが実際に用いられている事例を交えて「データサイエンスはとても重要であり、大企業ほどその重要性を理解している。現代では世界各地でデータサイエニティストを育成する動きや需要が既に見られている」と説明され「今の生活とデータサイエンスは切っても切り離せない存在だが、まだまだ人材不足だ。専門家にならなくても、少しでも統計学を学んでほしい」と講演を締めくくられた。また姫野先生は本校生について「データサイエンスに興味を持ってくれる生徒が多くてよかった」と話され「データサイエンス本格的に触れなくてもそれなしの生活は存在しない。データを正しく認識し伝えるトレーニングをしてほしい」とメッセージを送られた。